

手外科温故知新： Sigmoid notchのsigmoidとは

京都大学医療技術短期大学部名誉教授 上羽康夫

解剖学名集覧を見ているとギリシャ語由来の形容詞を持つ用語は少ない。例えば、Os sphenoidale 蝶形骨、M. trapezius 僧帽筋、Os scaphoideum 舟状骨などである。ギリシャ文字アルファベット24文字の第18番目に在るシグマ(Σ, σ)の形容詞 sigmoidもしばしば解剖学名に用いられ、Colon sigmoideum S状結腸、Sinus sigmoideus S状静脈洞などは医学論文の中でよく見かける。Sigmoid notchと云う語句は英語の手外科論文に時々現れる。このnotchは橈骨遠位端の尺側に存在する窩であり、尺骨骨頭部を受け入れる凹面は軟骨に覆われる関節面であり、遠位橈尺関節の橈側壁を形成する。

Sigmoid notchと名付けられているから、この窩は当然S字形をした関節面あるいはS字の部分を持つ窩であると私は長年信じていた。しかし、手術時に観察しても、解剖標本を調査しても、“notch”にS字部は見出せなかった。日本解剖学会編集の解剖学名集覧には橈骨の尺骨切痕incisura ulnarisと記載され、sigmoidを付した語句は全く見当たらなかった。英語を母国語とするイギリス、アメリカ、オーストラリアの手外科医達に「どうしてsigmoid notchと呼ぶのか教えて欲しい」と訊ねたが、不思議なことに、それに解答できる手外科医は誰も居なかった。結局、長年の友人であり、手外科の師でもあった米国Mayo ClinicのDr. James H. Dobynsに質問状をメールで送った。当初は意外な質問に彼も戸迷ったようであったが、親切な彼は友人：Stephen W Carmichael博士(当時Mayo Clinic解剖学名誉教授・国際解剖学会用語委員会副委員長)に問い合わせ、正式な英語の解剖学用語はulnar notchであり、解剖学用語にsigmoid notchは登録されていないのを確認して呉れた。また、「英語の“sigmoid”にはS字形を意味する場合、C字形を意味する場合があり、時には“new”とか“not previously known”を意味することもある」と教えて呉れた。ドーランド医学辞典には確かに“sigmoid : 1. shaped like the letter S or the letter C, 2. the sigmoid colon”と記載されている。“Sigmoid notch”がC形窩を意味するのであれば、私も納得できた。ただ、sigmoidがS字形ではなく、C字形を意味すると言われても、日本には納得できない人も居るだろうから、この際C-shaped notchと改称出来ないかと提案した。彼からの返事には、sigmoid notchの3次元解析をしたEvan D. Collinsらの論文を紹介しながら、語句“sigmoid notch”は現在の手外科領域では既に定着していて、改称は無理であろうが、Dr. Dobyns自身も“sigmoid notch”より“ulnar fossa”が適切だろうと結んでいた。

このメール論議後に彼は天国に旅立ってしまい、再び2人で楽しい議論を交わす機会は失われた。多くの手外科知識を授けて呉れたDr. James H. Dobynsに改めて深甚の感謝と哀悼の意を捧げます。